

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100％）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80％以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60％程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60％程度未満）

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
2. 内部質保証 【計画3】（企画部） 内部質保証の方針に基づき、本学における内部質保証システムを構築するため、「内部質保証推進会議」の機能強化を図る。 「計画達成のための方策」 「内部質保証推進会議」が、全学的な内部質保証システムの要として機能するためにその権限と責任を明確化し、継続的にその機能強化を図る。 「評価指標」 ・IR機能強化の状況、各種データの分析状況 【計画4】（学長戦略本部・企画部） 教育の質保証の観点から、年度計画を着実に推進するとともに、自己点検・評価及び外部有識者による評価を行い、その結果を改善・充実に反映させる。また令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応する。	Ⅲ	・IR機能を強化するため、各学部・学会の教員から構成している「IR推進室運営会議」のメンバーについても、他大学IR推進室との交流の場に参加できるようにした。具体的には9月下旬に他大学のIR推進室に本学向け研修会を開催いただき、同メンバーの希望者に参加いただいた。 ・2023年度に大学ビジョンにDX推進が位置づけられたことを受けて、学修基盤推進室及びDXマネージャーの主導により「ICTスキルチェックリスト」が策定された。同室とも連携し、教員のICTスキルもストラクチャー指標の一つとして有効活用していくこととした。 ・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率（継続）69.9% ・授業評価アンケートの回答率（継続）70.3%	【年度計画3】 「内部質保証推進会議」の権限と責任を明確化し、その機能強化を図るため、部局の現状等を更にエビデンスに基づき分析・評価できるよう、「学長戦略本部」と連携しIR機能の強化を図る。 「評価指標」 ・IR機能強化の状況、各種データの分析状況	Ⅲ	・令和6年度は、IR機能を強化するため、各学部・学科の教員から構成している「IR推進室運営会議」のメンバーから意見や取り組みを聴取する機会を増やした。「他大学研修会」や「高等教育に関する学会・研究会」などにおける活動報告、各学部・学会での教員や学生に向けた教学改善（研修・情報提供）などの事例を収集した。 また、全学的な教学マネジメント体制を構築し、教育・学修の評価・改善活動の促進、教育・学修の質の保証と向上するために「大学全体・学位プログラム・授業科目」レベルでの学修成果の可視化となるデータについて、議論した。その結果、授業評価の「定性データ」からの分析が必要があると考え、学長裁量経費で獲得した予算で「質的データ分析ソフトウェア」を購入し、R6年度授業評価アンケートの定性分析を進めている。 ・2024年度 学生の学修に関する実態調査の回答率（継続）79.6% ・授業評価アンケートの回答率（継続）72.7%				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
「計画達成のための方策」 年度計画を着実に推進するとともに、令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、計画的に準備作業を進める。 「評価指標」 ・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価の準備、評価結果 									